

わ 輪

つしよい!

いちのせき
協働ニュース

2016年2月

vol.8

一関地区まちづくり推進協議会を 紹介します!



地域づくり計画策定講座

一関地区まちづくり推進協議会

会長：齋藤 祥三

問い合わせ先
電話：0191-21-2148
(一関市民センター)

一関地区まちづくり推進協議会設立の経緯

一関地区まちづくり推進協議会（以下「協議会」）は、平成27年2月13日に発足した、一関・関が丘・三関の各地区の区長（自治会長）、民生児童委員、保健推進委員などで構成される一関地区地域協働体設立準備会がその前身です。

協議会の設立までに6回の準備会と4回の地域懇談会、数多くの課題検討会等を重ね、平成27年9月28日に設立総会が開催され、当協議会が発足しました。

一関地区まちづくり推進協議会が目指すもの

協議会の対象地域は、一関及び関が丘31行政区、三関4行政区、計35行政区と一関市の中心市街地を網羅する非常に大きな規模の組織です。そして、地域住民が協力して、行政や各種団体と連携を図りながら、地域課題の解決に努め、もって、明るく豊かで住みよいまちづくりを推進することを目的としています。

協議会では、目的の達成のため、地域づくり計画の策定にとりかかるべく、各民区から推薦があった「まちづくり推進員」の皆さんの協力を得ながら、平成27年10月30日を皮切りに、5回にわたり「地域づくり計画策定講座」を開催し、理想の地域像を話し合ったり、地域課題とその解決策などについて議論を重ねました。この講座でのご意



見を参考にしながら、今後は地域づくりのビジョンとなる地域づくり計画を策定していくこととなります。

また、この地域づくり計画をもとに、理想の地域像の達成のために地域課題の解決のための取組を進めていきますが、その実施には拠点施設を中心とした地域協働体の運営の基礎固めが必須であるとの考えから、協議会の拠点施設である一関市民センターの管理運営（指定管理）についても研究を行っています。

地域協働の推進のために

平成28年1月1日付けで一関市民センターに着任した地域協働推進員の尾崎誠子（おざきせいこ）さんを紹介します。尾崎さんは民間企業の経理事務の経験が長く、各種資格を多数お持ちです。

その経験を活かしながら協議会の基礎固めをしていただくことを期待しています。

【尾崎さんからのひとこと】

地域づくり計画策定講座が終了し、現在は地域づくり計画の策定に着手している段階です。着任が1月であったため、講座に関わらせていただいたのは1回だけでしたが、地域の皆さんの地域を良くしたいという熱意には感銘を受けました。私も地域づくりはまだまだ勉強が必要と感じてはおりますが、民間での事務経験を活かしながら、協議会の基礎固めを地域の皆さんと協力しながら進めていきたいと思っております。一関市民センターにお越しの際はお気軽にお声がけください。



各地域の協働の取り組み



モリウシ希望ネット花泉

会長：三浦 文雄

問い合わせ先
電話:0191-82-4375
(花泉市民センター)



平成27年2月15日設立総会

花泉地区の概要

面積:18.42km²、世帯数:1,023戸、人口:2,868人、
行政区数:11区、集落公民館数:14

設立の経緯

花泉地区では、「協働の理念に基づき住民自らが地域の将来像を考え、実現に向け行動することにより、住み良い地域社会を形成する」ことを目的として、平成27年2月15日にモリウシ希望ネット花泉を設立しました。

協働体の名称は、花泉地区を象徴する「ハナイズミモリウシ」と未来に「希望」を持ち、そしてつながり「ネット」を深める趣旨となっており、地区の方々から応募していただいた中から決めました。

まちづくり計画の策定に向けて

計画の策定にあたり、集落課題の現状把握を目的とし、昨年8月に集落懇談会を開催。その後、10月から11月にかけて地区内全世帯、各種団体及び地区内の事業所を対象としてアンケート調査を実施しました。

1月から3月にかけて、集落懇談会やアンケート調査の結果を基に、地区ビジョンや課題の明確化を目的としたワークショップを開催し、計画づくりを進めていきます。

集落懇談会の開催

8月18日から31日までの間、地区内5カ所において集落懇談会を開催し、地区の地域協働の必要性や地区の人口推計などについて説明しました。

参加者からは、集落の会合に若い人が来ない、一人で多くの役職を担っているといった集落課題に対する意見が寄せられました。



地域協働推進員の紹介

7月1日から花泉市民センターに地域協働推進員として勤務しています佐藤芳郎です。地域協働体「モリウシ希望ネット花泉」の運営の一端を担うことになると思うと責任重大で、身が引き締まる思いです。

これからは「多様性との共生、お互い納得いくまで話し合い、理解を得られること、そして寛容の精神が大事」という考えのもと、地域に貢献していきたいと思っています。



各地域の協働の取り組み



興田地区振興会

代表：伊東 三四司

問い合わせ先
電話:0191-74-2201
(興田市民センター)



京津畑交流館「山がっこ」での『地域づくり懇談会』

団体の特徴

地域協働体登録：平成27年6月
世帯数：1,228戸、人口：3,511人、行政区数：21区
地域：市内の最北端に位置し、沖田・鳥海・中川の3地区で構成されています。地区中央には興田川が流れ、上流の鳥海川には名所で知られる小黒滝があります。清風をもたらす自然豊かな地域です。

地域協働体登録までの経緯

昨年、地域協働体として登録した興田地区振興会（以下「振興会」）は7年前から住み良いまちづくりに取り組んでいる団体です。現在、構成団体は18自治会と各種11団体が加入しています。

これまでの活動

近年では地域資源を活用し、地区内の風光明媚な10カ所を「興田十景」として独自に認定し、それぞれのビューポイントに大型フォトフレームと案内看板を設置しました。大型フォトフレームから望む景色は、まさに絶景で地域自慢の場所です。

また、昨年9月からは、中学生以上を対象に、アンケート調査を実施。子育て世代を対象にしたワークショップや旧小学校区ごと5会場地域づくり懇談会を開催するなど協働のまちづくりに向けた意見、提案を収集してきました。

新たにSNSの『Facebook』を開設し、振興会で発行する広報紙だけでは伝えきれない日々の情報をお届けしながら情報収集ツールとして活用しています。

今後の展開

振興会のまちづくり検討委員会では、各種アンケートやワークショップ、懇談会での意見を集約し、興田地域づくり計画の策定に向けた作業を進めており、振興会の活動は、地域づくり計画が出来てからが本格的なスタートになります。

【地域協働推進員から一言】

11月から興田市民センターに地域協働推進員として勤務している千田秀明です。

「興田地区が住み良くなったよね。」と少しでも思っただけのように、興田の魅力などを内外に発信していきたいと思えます。ベテランと若者の中間の年齢なので、架け橋になれるように努めていきます。



各地域の協働の取り組み



千厩地区まちづくり協議会

会長：永澤 由利

問い合わせ先
電話:0191-52-2309
(千厩市民センター)



千厩夏まつり

千厩地区のまちづくりの様子

千厩地区まちづくり協議会(以下「協議会」)は、地区内の79の組織により、平成17年8月9日に設立しました。

協議会の主な活動は、千厩夏まつり参加や千厩地区民祭など千厩地区のイベント実施のほか、地区の学習活動を行う「21世紀塾」などを行っています。

「住民総参加の千厩夏まつり」を盛り上げるため、夏まつりに参加していなかった自治会に呼びかけ、千厩地区チームとして出場。沿道から盛んな声援を受け楽しい時間を過ごすことができました。

地域計画策定に向けて

協議会では、千厩地区の将来を形づくる地域計画の策定に向け、地域活動の基本単位である自治会ごとに地域計画づくりを進めてもらいました。また、協議会を構成する各団体等の課題把握のためにアンケートを実施し、その集約を行っています。

計画づくりに向けて、昨年度までに先進地視察研修やまちづくり講演会を開催しました。一昨年度にはまちづくりワークショップを開催し、地域の現状や課題、その解決方策等について様々な意見を出し合いました。

現在は、アンケートの結果を受け、千厩地区全体の共通課題などを話し合うため、「地域計画検討委員会」を立上げ地域計画づくりを進めています。

今後は、それらを受けて、いよいよ地域住民みんなで意見を出し合い、協議会の目的でもある「住んでみたいと思えるまちづくり」の実現を目指し歩みを進めています。

会長から一言

新しい地域のあり方を目指して、自治会を中心に地域経営計画策定に向けて取り組んできました。地域が安心して、明るい生活を送ることができるのか、まだまだ道なかばです。

地域の人の知恵と工夫で、積極的に地域運営に参画できるような仕組みを取り入れたいと考えます。多様なニーズを把握しながら、希望をもって計画を推進していきます。

各地域の協働の取り組み



長坂地区地域協働体設立準備会

会長：鈴木 正敏

問い合わせ先
電話:0191-47-2243
(東山市民センター)



設立準備会を進行する鈴木会長

長坂地区の協働のまちづくりが本格始動

東山町の長坂地区では、昨年の7月28日に長坂地区地域協働体設立準備会(以下「準備会」)の結成協議を行い、満場一致で準備会が発足しました。

準備会の結成協議には、長坂地区の行政区長や自治会長、各自治会から推薦された代議員など約50人が出席。最初に準備会の結成についての承認を得た後、準備会規約や役員選出などについて協議が行われ、会長に鈴木正敏さん(長坂4区行政区長、本町自治会長)が選出されました。

東山地域では、地区ごとに地域協働体を設立することで協働のまちづくりを進めています。松川地区と田河津地区は昨年4月に地域協働体が設立されました。長坂地区でも今年4月の設立に向け準備を

進めており、東山の全地区に地域協働体が設置される見通しとなっています。

一步一步着実に

準備会では、月1~2回のペースで会議を開き、地域協働体設立総会に提案する規約等の検討や地域課題の掘り起こしなどを行っています。

特色として、「わかりやすく、親しみのある協働体」を目指し、地域協働体の組織として設置予定の部会では、名称を全てひらがな表記とし、「おせわ・ゆとり・くらし・なりわい」の4部会を設置する予定としています。

また、総会に提案する議案のほか、「地域づくり計画」の素案作りにも着手。これまでに4回のワークショップなどで検討を行っており、一步一步着実に準備を進めています。



たいしたもんだ長坂みらい塾(仮称)

準備会では、地域協働体の名称についてもこだわりを持って検討を行いました。

準備会委員から案を募り、数点に絞り込みを行った後、「一度聞いたらインパクトがあり、皆に覚えてもらえる名称にしよう」と、たどり着いた名称が「たいしたもんだ長坂みらい塾(仮称)」です。

正式には、設立総会の承認を得て決まりますが、地域から「たいしたもんだ」と親しまれ、長坂地区の「みらい」に繋がる地域協働体を目指しています。



川崎まちづくり協議会

議長：伊藤 力

問い合わせ先
電話：0191-43-3112
(川崎市民センター)



全体会

川崎まちづくり協議会の概要

平成23年3月に設立された川崎まちづくり協議会（以下「協議会」）は、今年で6年目を迎え、自治会連絡協議会、女性協議会など団体の代表者や20代から80代までの個人加入者あわせて39人の会員で活動をしています。

声を集める・発する

協議会では、昨年5月に、住民の声を集める仕組みづくりの一環として「まちづくりポスト」を町内5カ所に設置しました。寄せられた意見は、全体会で話し合い、議会（役員会）で意見をまとめて関係者等へ提案するという形で地域づくりに住民の意見を反映させています。寄せられた意見と検討結果は、情報紙「かわちゃんアンテナ」で地域の皆さんにお知らせしています。

現在のテーマはフリーですが、今後は、地元に関するさまざまなテーマを設けて、意見を募集したいと考えています。

また、8月には協議会からの効果的な情報発信を目的として、「桃色ウサビ*真似プロジェクト」を立ち上げました。プロジェクトでは、情報発信の方法や考え方を学ぶため、山形県コミュニティ支援アドバイザーの佐藤恒平さん（桃色ウサビの中の人）の活動を視察。11月には佐藤さんを講師にまちづくり講演会を開催し、「非主流の地域振興」によるまちおこしの可能性を学習しました。

協議会のFacebookには「ウサビを真似たぬいぐるみ」が登場し、川崎町的话题を発信中です。
※桃色ウサビ…山形県朝日町の非公式PRキャラクター



これからの活動

協議会では、旧門崎小学校の利活用について、話し合いを進めています。「せつかく貸すのなら、キレイな状態で貸したいね」という一言が発端となり、廃校＝廃虚といったイメージを払拭するため、昨年度は自主事業として校舎内のお掃除事業に取り組みました。また、今年度は元気な地域づくり事業「本日は登校日!ゆりのき校舎事業」として、旧門崎小学校のお掃除事業を計画し、地域に呼び掛けたところ、子供から高齢の方まで100人を超える参加がありました。

これからも川崎まちづくり協議会では、まちづくりポストの活用など、地域のみなさんの声を活かしながら、地域課題の解決に楽しく取り組んでいきたいと考えています。



いちのせき市民活動センター

NPO・行政・企業・地域の情報発信により
アイデアと出会いの機会を創ります

地域づくり計画の動かし方

地域づくり計画が完成すると達成感と安堵感から力が抜けてしまう傾向がありますが、計画を実行していかなければ、それは絵に描いた餅で終わってしまいます。これまでもたくさんの絵を描いてきたけど、実現せずに棚上げになっているものも少なくなかったはず。でも、これからは地域主体の地域づくりを進めていく訳ですから、実行力も伴わなければ意味がありません。では、どのように行動に移していくのか?その手法をまとめます。

実行=専門部会?

地域づくり計画には、目指すべき将来像の下に分野ごとの事業計画が示されています。協働体によっては、専門部会を設けている場合もあり、分野ごとのことだから、その分野に該当する団体や人たちに担ってもらえばいいという発想では、何ら変わりはありません。計画の案件を元のメンバーに戻してしまうことになり、戻された人たちは、「やること増えた」と考えられると言われてもいつもと同じメンバーではアイデアも出てこない「結局は、元の状態と変わらず」。

地域協働の目的は、「運営しやすい地域にしていこう」というので、具体的なアクションに、どれだけの人を巻き込む工夫を凝らすかが重要なポイントです。

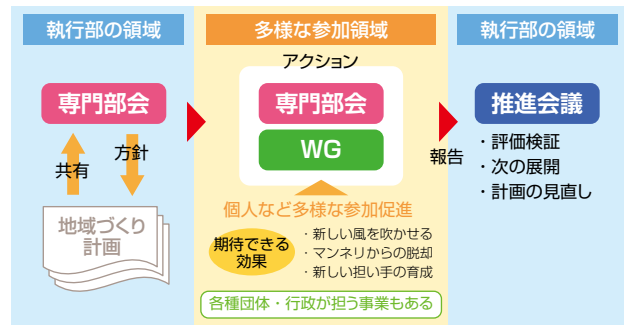
多様な参加を促すための戦略を練る

地域づくり計画が完成したら、地域のみなさんに報告をして、みんなで取り組んでいく意識をそろえます。次に、協働体で取り組む事業の優先順位を決め、実施事業をいくつか絞り込みます。案件を部会に投げずに、まずは協働体で決めることで、みんなで決めたことだからと納得を生み出すことと部会メンバー以外のアイデアが入った新しい方向性ができます。（取り組むことを決めてから計画の報告会を開催することも可です）

次からが専門部会の出番となります。部会は、事業実施の目的達成後のイメージを持ち、地域にいる人に協力を呼びかけ、部会が中心となったワーキンググループ（実行委員会形式）で取り組んでいきます。このことで今まで参加しなかったけれど関心のある人や必要な知識や経験を持った人の参加を促進する効果を期待できます。（※各種団体が実施すべき事業もありますので、すべてがワーキンググループというわけではありませんのでご注意ください。）

事業を振り返る

事業実施後は、事業の効果、継続性、見直しなど協働体で評価検証を行うことが必要です。地域づくり計画の事業においては必ず市の補助金の「ひと・まち応援金」で事業実施しなければいけないというものではなく、各種団体の自主事業や行政の事業において実施されるものもあります。広く地域の事業を見渡し、計画と照らし合わせて評価することも必要です。



ちいき 地域 そだて ひと 人 そだて

地域づくりをサポートしています
<http://www.center-i.org/>

いちのせき市民活動センター
一関市大町4-29 なのはなプラザ4階
TEL 0191-26-6400 FAX 0191-26-6415

いちのせき市民活動センターせんまやサテライト
一関市千厩町千厩字町149
TEL 0191-48-3735 FAX 0191-48-3736

